

吾妻連峰

東北南部

天元台～吾妻小屋

1992年3月14日～15日

メンバー：L菅沼博、加藤康男、山崎義男、岡坂準一、岩崎正隆、蔵田道子、手塚紀恵子

14日（ガスのち晴）天元台～吾妻小屋

米沢駅前のビジネスホテルに泊まったりして早朝タクシーで天元台ロープウェイまで入る。急ぎ支度を整えロープウェイで天元台のゲレンデに登る。親切なリフト3本を乗り継いで、梅森ゲレンデ上部へ登る。ガスの中を先行パーティーが登って行く。リフト小屋に山行届けを提出し、我々もシールを着け出発する。

人形石へは立派なトレールがありそれに従う。樹林帯の中は粉雪だが稜線は流石にアイスバーン状となる。稜線に出てひと休みしていると、みるみるうちにガスが晴れて、目指す東大巔も見えるようになった。何という運の良さか、西大巔はさすが標高があり山頂部は雲がかかっている。

行く手が見えれば何の問題もない。早速シールをはずし、藤十郎の鞍部までのひと滑りを楽しむ。傾斜は緩いが丁度いいあんばいに良く滑る。鞍部からは再びシールで東大巔を目指す。藤十郎を越えると再び下りだが、ここはシールのまま下りもうひと登りで東大巔に着いた。大沢下りを楽しむ人たちが大勢の人たちが山頂を巻いて明月荘方面へ直接行っているようだ。山頂でも大勢の人たちが休んでいる。

東大巔からは360度の展望が楽しめ、これから目指す谷地平、東吾妻山、姥ヶ原等々が間近に望まれる。高山のアンテナは良く目立つ。通ってきたルートの背後には、ガスが

晴れた西吾妻山が大きく見える。ただこれから下るルートは、斜面のほとんどが樹林に覆われており先行きが少し不安になる。

正午少し前、予定通り谷地平へのルートへ滑降を開始する。縦走路を昭元山へ進むパーティーが見えるが谷地平方面へのシュプールはない。どの辺りが滑り易いか全く予備知識が無いので、見たままのルートを滑る。天気がいい分雪質はイマイチといったところだ。昭元山からの尾根が目の前に台地状になっており、そこを越えて滑ることにした。沢沿いは狭くなりそうなので避けた格好となり、これが大正解だったようだ。樹林帯は少し密だが、おおむね順調に滑り高度を下げる。途中沢沿いに下りたい誘惑に何度か悩まされたが振り切って沢には入らなかった。これがまたまた大正解ですぐ下で尾根が終わっており、右も左も滝になっていて急な階段下りを強いられたが難儀をせずにすんだ。何故かこの少し前からシュプールが出現し、あとはこのシュプールに従ってほぼ夏道通しに谷地平に出ることができた。大倉深沢を飛び石伝いに渡り大休止とする。天気は完全に晴れてしまい暑いくらいだ。

ここでシールを着け吾妻小屋を目指す。ルートは谷地平の小屋の前からはほぼ夏道通しに姥ヶ原を目指す。今年は積雪量が少ないので小屋はすぐに発見でき、入り口を少し掘れば中へも入れるようだった。右岸の台地状に登るのだがすぐに樹林帯になり、どういう訳か粉雪状でビッシヨリ濡れたシールに粉雪がビッシリ着いてしまい、途中でシールにワックスを塗ることになってしまった。だんだん足取りも重くなりようよう姥ヶ原へ登る。姥ヶ原は風が強いためか雪が飛ばされて地肌や木道が姿を現している。左よりの雪を拾って鎌沼の見える所まで行く。

一切経山からの下りコースがまるでゲレンデのように見える。シールをはずし今日最後の滑降を楽しむ。鎌沼の上を横切りシュカブ

ラ状の原を通り、一切経山のルートに合流し浄土平まで滑った。吾妻小屋は小山の反対側にあるのでシールを着ける者、そのまま階段で登る者バラバラに吾妻小屋に到着した。

今日は団体で満員とのことだが、色々事情を話しなんとか泊めてもらう。この夜は6畳に9名で暑く寝苦しい一夜になった。

15日(ガス&強風) 吾妻小屋→土湯温泉

今日は天気が悪いので予定(東吾妻山より土湯方面に下山)を変更し最短ルートで土湯温泉に下ることとする。小屋で泊まりあわせた方々と道路で別れ、我々は道路沿いに鳥子平へ進む。高山の登りでは風が強くなり、山頂では風がうなっていた。シュプールがいくつもあり、それに従って滑る。始めのうちは

広い尾根状を滑り快適だったが、すぐに樹林帯に入って神経を使うスキーを強いられる。鷲倉山の所が少しわかりづらかった。林道手前のワンピッチはスキーを”ハの字”にしたままの苦しいプルークを強いられ、足がガクガクになってしまった。林道を不動湯入り口まで滑り、そこからは歩いて土湯温泉に無事下山できた。

50円の共同風呂に入り、バスで福島駅に出、新幹線で帰京した。

コースタイム：天元台リフト上 9:35→人形石 10:00/10→東大巔 11:25/50→谷地平 13:00/30→姥ヶ原 15:50/16:10吾妻小屋 16:50/吾妻小屋 8:20→鳥子平 8:45→高山 9:40/50 林道 11:25/35→不動湯入り口 12:00/10→土湯温泉 12:35 (菅沼 博)

